

プロジェクト課題No.4

水稲乾田直播栽培の定着による 大規模土地利用型経営体の基盤強化

活動期間：令和6年度～令和7年度

対象者：(有)ITO、(株)高橋グリーン、(農)アグリ今泉、(農)若木の里、みどりあーと山崎(株)

チーム員：八木沼湧太、今関美菜子、大越那津季

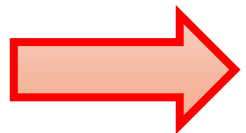
課題の背景・ねらい

育苗施設が足りない
田植えや育苗管理の時間が足りない

- ・農地集積により法人の規模が拡大
- ・限られた人員、時間、資材の中で経営規模拡大に限界感
⇒ 水稻栽培の省力化、効率化が喫緊の課題に
⇒ 水稻乾田直播栽培の取組面積拡大による解決

◎乾田直播栽培の面積拡大への道

- ・収量の安定化、栽培技術の習熟
- ・作業省力化効果の具体的な数値等の明確化
- ・スマート農業活用による更なる効率化の可能性



【定量的目標】 対象5法人の乾直取組面積
R5(基準)14ha → R6:25ha → R7:33ha

活動内容

○基本技術習得支援

- ・播種指導、生育調査、巡回指導
- ・現地検討会、総合検討会の開催

○乾直導入による省力化確認

- ・春作業時間聞き取り、作業時間比較

○アグリテックの効率的な活用支援

- ・アグリテックに関する課題解決支援
- ・アグリテック活用状況聞き取り



播種作業



生育調査

活動の成果(令和6年度)

○基本技術習得支援

- ・積算気温活用、雑草の確認で除草適期把握
- ・生育調査に基づく情報提供、助言
- ・東北農業研究センターの研究員を招き現地検討会、総合検討会を実施



★除草や入水の時期やポイント理解促進

★**移植栽培と同等**の収量確保

→ササニシキ**約490kg/10a**(移植約470kg/10a)

★課題が整理され、**次年度対策も検討**

★**面積拡大への意欲が向上！10ha規模へ**



7月 現地検討会



1月 総合検討会

活動の成果(令和6年度)

○乾直導入による省力化確認

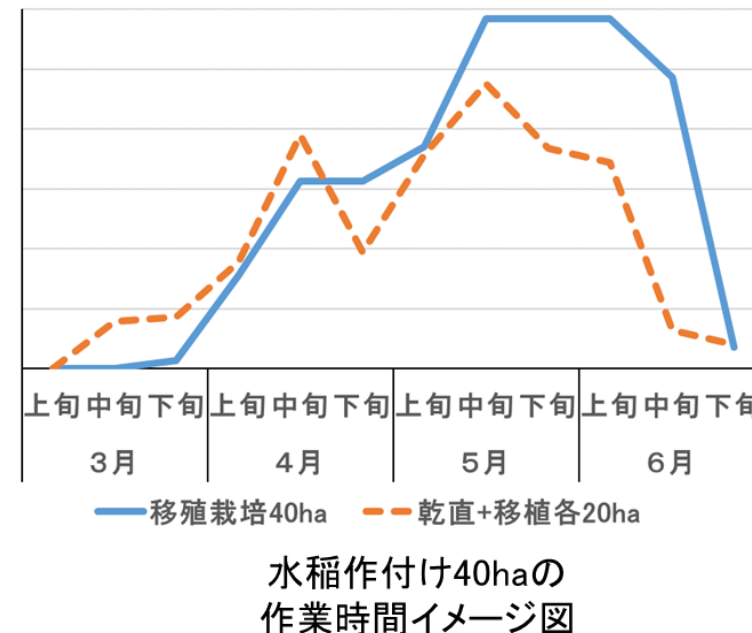
みどりあーと山崎へ作業時間聞き取り

- ・均平作業等は時間がかかるが、3月に実施で春期作業量が平準化
- ・播種作業: 1haあたり、約1時間、2名で実施可能
- ・育苗箱節減(-2,000箱/10ha)、湛水直播より楽



★春作業分散のイメージを作成

★乾田直播導入の利点として新規取組希望者へ周知→1月の「乾田直播講習会」で提示



活動の成果(令和6年度)

○アグリテックの効率的な活用支援

- ・(有)ITOにアグリテックアドバイザー派遣
ザルビオフィールドマネージャーの操作
- ・各法人のアグリテック活用状況聞き取り



★若手従業員が操作方法を学び、今後の
活用に弾み

★営農管理システムなどを導入している
が作期中に操作する時間がない等課題



専門家派遣の様子

活動の成果

- これらの取り組みにより、対象者の省力化の実感と栽培管理への手応えが高まり、面積拡大への意欲向上！

【定量的目標】 対象5法人の乾直取組面積

R5(基準) 14ha → R6: 25ha (実績: 33ha) → R7: 33ha (予定: 55ha)

【波及先として講習会を開催】



1月 乾田直播栽培講習会



【事例を紹介するITO代表】

認定農業者に案内し、あさひな管内で70名以上

【アンケート結果】(有効回答数35)

来年から導入したい 5経営体

数年以内に導入したい 14経営体

・育苗数の減、春作業の省力化への期待

・乾直導入に対する関心高い

・機械の設備などは課題

令和7年度に向けて

○基本技術習得支援

- ・巡回指導、生育調査の実施による**適期作業の支援**
- ・雑草防除のスケジュール、薬剤を検討
→**体系的雑草防除計画の策定**
- ・現地検討、総合検討会、**視察研修等**の開催



○乾直導入による省力化確認

- ・**10ha規模**での作業時間の確認
- ・肥料や農薬、機械など**費用面の検証**



○アグリテックの効率的な活用支援

- ・**可変施肥の効果**確認
- ・アグリテックに関する課題解決支援(専門家派遣)